特定非営利活動法人 日本免疫学会

平成 23 年度 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**

研究発表報告書

申請者氏名	竹馬 俊介	会員番号	0024875
申請者の所属・職名	京都大学・医学研究科・免疫ゲノム医学講座・助教		
出席会議名	米国免疫学会(The American Association of Immunologists)		
発表論文タイトル	Type I interferon promotes PD-1 transcription and limits the duration of T cell-mediated immunity		

実施結果:

慢性感染症においては、免疫系の疲弊が起こり病態のさらなる遷延化や、二次感染を起こす原因となる。申請者はこれまでに、宿主の抗ウイルス因子であるタイプ I インターフェロンが、T 細胞の免疫抑制受容体である PD-1 のプロモータ活性化と発現増強を刺激し、T 細胞疲弊にかかわることを示した。この結果は、慢性ウイルス感染の一因を明らかにするだけでなく、がん患者に対するインターフェロン治療の有効性が限定的であることを説明し、今後これら難病の新規治療法に結び付くものである。

この成果を国際的な研究会において公表するため、平成23年5月13日～17日に開催された米国免疫学会に参加し、発表を行った。13日午後に行った口頭発表では、18枚のスライドを用い、12分の発表を行った。その後、TCR とインターフェロンシグナルが初期、後期の PD-1 誘導にどのように関わるか、など2件の質疑があり、討議を行った。14日のポスターセッションでは、多くの学会参加者がポスターを訪れ、データの説明および討論を行った。

特に今回発表の研究は、自然免疫、獲得免疫およびがん免疫といった多くの側面を持ち、これを、普段なじみのない英語で発表し、国外のそれぞれの分野の研究者と討論することで、多くのフィードバックを得ることができたと考えている。

学会が終了した5月17日火曜日の午後には、UCSF の共同研究者(Jeff Bluestone 教授)を訪問し、Bluestone および Mark Anderson 研究室の合同ミーティングにて、非公式セミナーという形式で、現在進行中の研究発表を40分間行った。発表中、また、発表の後には、両研究室のメンバーから多数の貴重な意見を得ることができ、当該研究の今後の発展に大いに役立つと考えられた。

最後に、このような機会を与えて下さった岸本先生、および日本免疫学会に深く感謝いたします。

注) 本報告書は手書きでなく、ワープロを使用して作成して下さい。